

小児歯科学分野

教授 早 崎 治 明

小児歯科学分野は、昭和54年（1979年）に野田忠名誉教授が国立小児病院（現在の国立成育医療センター）から教授として赴任され「新潟大学歯学部小児歯科学講座」として2名の先生方で開講いたしました。野田先生は、本州日本海側の唯一の国立大学の小児歯科学講座の主任として小児歯科学の発展と小児歯科臨床の普及に努められました。また、野田先生はそのお人柄を抜きでは語れません。患児や保護者、学部学生からの人気も非常に高く、歌を歌いながら、あっという間に楽しく診療を終えてしまう野田ワールドは、多くの卒業生がご存知であろうと思います。平成17年（2005年）に野田先生がご退官を迎えられた後には、平成20年（2008年）4月に私・早崎治明が鹿児島大学から赴任し、現在に至ります。

さて、ここからは小児歯科の現状をお話させていただきます。日本は世界の中で最も少子高齢化が進んだ国として知られております。また、3歳児の乳歯の一人平均う歯数は、私が大学を卒業した当時（昭和62年）は3.9でしたが、平成23年（2011年）には0.6にまで減少しました。しかし、日本小児歯科学会専門医歯科医院は、多くの保護者から支持を得て、非常に多忙な日々を過ごされているそうです。少子化やう蝕の減少ゆえに、より高い質の歯科医療を求めるようになるのではないかと考えられます。小児歯科の世界も日進月歩、たゆまない研鑽が必要な今日この頃です。

平成24年11月に小児歯科診療室は新外来棟への移転をし、小児歯科・障がい者歯科診療室と名称を改めました。我が国の障がい者数は人口の約7%であり、さらに小児においてはこの他に発達障害の診断を受けることなく、健常児として通学している児童が相当数いることが報告されています。政府は年齢や障がいの有無等に関係なく安全に安心して暮らせる「共生社会」の実現に積極的



に取り組んでおり、障がいをお持ちの患者さまが歯科受診をされる機会は増加をしていくと考えられます。小児歯科・障がい者歯科の果たすべき役割は以前に比べ格段に増しております。

小児歯科学分野（小児歯科・障がい者歯科診療室）では私が赴任して以来、10名の先生が大学院を修了し博士となっておられます。これらの先生方には独自の卒後カリキュラムに沿って指導が行われております。さらに、入局1年目の先生方のすべての診療行為には教官がアシスタントと一緒に診療にあたることも義務化しています。また、治療計画の立案時には先輩の大学院生がマンツーマンで指導しており、大学院生のうちから「指導」することの意識付けをしております。ハードな卒後研修の中で、先輩と後輩が意見を交換しあいながら「全人的な資質」が育むと同時に、歯科的な知識のみならず関連医学や障がいに関して、自ら見分を広げる力を身につけていただきたいと考えています。

こう書きますと辛い毎日の連続のように思われるかもしれませんが、実際には楽しい行事も多く開催されます。大学院生や若手の医局員を中心とし、誕生日会・餅つき・BBQ等、楽しい行事を企画運営し、英気を養っております。さらに医局



旅行も行い、医局員の懇親・結束を深めております。

これらの詳細につきましては、小児歯科学分野のホームページ (<http://www.dent.niigata-u.ac.jp/pedo/pedo.html>) で逐次更新しておりますので、楽しんで閲覧していただければ幸いです。

教授	早崎 治明
准教授	齊藤 一誠
講師	大島 邦子
助教	岩瀬 陽子
助教	中村 由紀
医員	澤味 規
医員	鹿兒島 暁子
教務補佐員	黒澤 美絵
学振特別研究員	村上 智哉
大学院生	村上 望
大学院生	中島 努
大学院生	花崎 美華
大学院生	左右田 美樹
大学院生	野上 有紀子
大学院生	鈴木 絢子
大学院生	松枝 一成
研究生	君 雅水
社会人大学院生	村井 朋代
社会人大学院生	丸山 直美

